

第2回 長野県 ICT 学び推進委員会 議事録

R2. 8. 28
学びの改革支援課

1 日 時

令和2年8月28日(金)13:30~15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、村松教授
【長野市三本柳小学校】宮澤校長 【喬木村立喬木中学校】川手校長
【栄村立栄小学校】宇佐美教諭、 【佐久市立中込中学校】瀬下教諭
【諏訪清陵附属中学校】五味教諭
【学びの改革支援課】曾根原課長、小池義務教育指導係長
【北信教育事務所】中村指導主事 【東信教育事務所】高寺指導主事
【中信教育事務所】山口主任指導主事、市川指導主事
【南信教育事務所】中嶋指導主事
【総合教育センター】松原情報・産業教育部長、安松専門主事
【ICT 教育活用アドバイザー】坪井様
【長野県市町村自治振興組合】小林様
【先端技術推進課】丸山技師
【キッセイコムテック株式会社】海江田様、小澤様
【富士電機 IT ソリューション株式会社】古屋様、嶋田様
【株式会社タツノ】今里様
【県教委】内川指導主事、丸山主任指導主事、松坂指導主事、降旗

4 内 容

(1) 最近の国の状況についてのご説明（東原特任教授）

- ・GIGA スクール構想が動いている中で、市町村と都道府県が連携しているケースは稀。長野県はうまくいっている。奈良県は頭1つ抜けて進んでいる。NN（奈良県・長野県）連携、長野県も露出度を高く。
- ・共同調達
- ・クラウド ID
 - 一児童も生徒も先生方を含めた長野県の教育関係者は一人一つアカウントを持つということ。
 - 一県立高校は先行で行っているが、3年後には長野県で統一されたクラウド ID

を持つことになると思う。

—良さは使っているうちに実感が持てる。文部科学省以外の国機関、政府も重視している。長野県は先陣を切っている。

・これからの課題

—導入した機器が利活用されること。誰一人取り残さない、市町村も取り残さない、長野県がうまくいくためには、県と市町村の連携が重要。

—課題に気づいていない市町村。

課題に気づいていない自治体がある。このままだとまずい。

信州大学の自治体支援事業などを活用するべき。

例) 某学校での出来事。

研修でお邪魔した際に、NW が動かない印象を持つ。テレビ会議を行うと画像がカクカクしている。

原因として、アクセスポイントが家庭用であったり、工事業者が設定したりしていて、専門外の業者が作業していた。

・教育委員会と学校現場の認識

—結果的に導入決定は教育委員会が決めるが、学校現場では一緒に考えているという認識があまりなく、押し付けられているという認識が出来てしまう。

—安全重視過ぎるために、利用可能なツールが制限されてしまうことになる。

例) Google Classroom は利用可能だが、G ドライブで情報を共有できない等。

・国の動向

—ICT 教育環境整備ハンドブックが役に立つ。

—GIGA HUB というサイトでも情報提供

—日本教育新聞でも情報発信がされている。

—個人情報保護法が壁となり GIGA スクール構想で実施したいことが出来ない
→今後必ず話題になる。(条例等の改正のためハードルが高い)

—情報共有については、この会を有効活用して欲しい。

—中央教育審議会

1月に答申をまとめる予定。新しい初等中等教育の在り方「令和の日本型学校教育の構築」多くが ICT 関係のこと。

(2) 協議 (司会：村松教授)

【村松】協議の前に、ここの会は大変貴重。栃木で講演したが「長野でうまくいっていることを話してほしい」といわれた。発信していくことが大事。

(2) - 1 市町村共同調達の状況説明

【降旗】別添資料のとおり現状を説明

(説明内容)

19 市町村が共同調達に参加となった。

Chromebook 約2万台、iPad 約8千台、Windows 約23百台となった

【東原】台数、OSは共同調達で紹介の通り。共同調達参加していない市町村の調達内容について情報共有出来たら。

また、iPadは全校でのケースもあるが、低学年iPad、高学年Chromebook or Windowsというケースもあり。異なるOS混在。クラウド運用のポイントとなる。

(2) - 2 共同調達に関して各業者から現状説明

【キッセイコムテック株式会社：小澤】Chromebookについて別添資料のとおり説明(説明内容)

展開 極力教育委員会の負担がないように。初期設定、端末初期設定、利用開始。

①申し込みはそれぞれ教育委員会で実施。支援はします。

②環境構築：打ち合わせ実施して決定。命名規則、組織構造、NW設定、アプリ設定、ポリシー設定

③環境構築：MDMはクラウド環境で一元管理。従来の設定と異なる。

④～⑥ドメイン管理対象登録。設定は全端末に反映。

⑦現場で動作確認

⑧利用 ※番号は資料のとおり

アカウント命名規則：長野県教育用クラウドIDに準拠

@マーク前を覚えておけば、後ろは自動入力する機能あり。生徒は前の部分とパスワードのみで入れる。

クラウドの組織構造：シンプルな組織構造で案内(教委¥児童生徒¥入学年度、¥教員)。現場と教委を結ぶメッセージャーとして機能したい

【村松】先生方に考え方が浸透するまで時間かかるかも。現場の負荷が減るのは歓迎。

アカウント命名規則についてはこれまで県教委とも協議してきた。何かあれば改善していく。

【富士電機 IT ソリューション株式会社：古屋】iPadについて別添資料のとおり説明(説明内容)

9月～事前設定

10月キッティング

11月導入。

事前設定：アップルスクールマネージャー。ヒアリングの上、設定。アップルIDの作成、MDM設定。デバイス登録、アプリ発信端末の整備、動作確認の上導入。推進委で了承された環境で導入する。

教育クラウド ID は県推奨で実施する。

【村松】管理系が難しいといわれたが、MDM で一括にできるようになったという理解でよいか？

【古屋】そのように考えている。

【村松】12 月には手元に届くのか？

【古屋】12 月全校に届くよう考えている。

【株式会社タツノ：今里】Windows について別添資料のとおり説明
(説明内容)

GIGA スクール構想から Windows 展開について大きな違いが出てきた。クラウドで提供される基盤と Intune で、これまでと違った展開となっている。

(これまで) サーバーに生徒の ID を作る。端末のイメージを焼いて展開

(今回) クラウド上に認証基盤。端末を制御できるツール Intune をクラウド環境で提供。クラウドで整備。ログインもスムーズ。設定も自動配信。従来のイメージと変わった。

ID 管理は重要になってくるところ。

端末管理ツール：Microsoft Office365 GIGA Promo のライセンスを活用する予定。

作業の流れ：

ステップ 1

教育委員会での対応：テナント取得、ID 作成。ドメイン名や管理者 ID、教員、生徒の情報の提供を。ID 作成は県教委推奨を作成していく。

ステップ 2

業者での対応：MDM に紐づけ。クラウドから設定等を流すことが可能

アップデートの問題：夜間にアップデートをかけることが可能。ユーザごとに設定する。

今回はキーボード付き 2 in 1。閉じた状態でアップデート可能。

スケジュール：ドメイン取得、管理者 ID、パス設定で。2~3 週間かかる見込み。
→環境づくり、学校へ (1~1.5 か月)。学校の工事に合わせて導入。12 月を目途に導入していく。

【村松】Microsoft のアップデートも改善されているということで良いと思う。

業者さんには今日のポイントなどを、教育委員会担当者に伝わりやすいようお願いしたい。

この会を通じて情報共有し、協力しながら進めていければ。3 社ご苦労いただくが、よろしくお願いしたい。

【東原】文部科学省が提言する GIGA スクール構想では、これまでと違い、思い切ったことをやろうとしている。今までパソコン教室だったのが、1人1台端末でクラウドを利用するといったことになる。

しかしながら、例えば学校の中でアクセスポイントのSSIDが個体ごとに異なる、又は学校毎に異なる等が発生すると、GIGA スクール構想の実現に対して足枷となる。

導入業者3者が一番感じていると思うが、市町村教育委員会の情報担当者などの意見が強く導入がうまくいかない。又は過去の事例に縛られることがあると思う。

変化するのは今だということ。一緒になって解決に取り組みたい。

【村松】導入業者3者様には、宜しくお願ひしたい。

(2) - 3 教育クラウドに関する市町村教育委員会アンケート結果説明

【降旗】別添資料のとおり現状を説明

(説明内容)

令和2年6月末から、市町村教育委員会に対し現状のクラウド利用等を確認。現状では契約14団体(6団体 Google、4団体 Microsoft、他は業者提供)が利用。

契約していない自治体の今後、半数32団体検討中 or 前向き

→32団体の半分はG-Suite、残り Microsoft、業者提供クラウド。

市町村からの意見：

アカウント発行ルール等統一見解は必要で。ただし、実情に合わせた変更性も必要。運用は自治体で判断させていただきたい、など。

(2) - 4 教育クラウドに関する命名規則統一案

(2) - 5 教育クラウドに関する市町村連携

【松坂】別添資料のとおり検討事項を説明

(説明内容)

「長野県教育クラウド ID」としたい。マインドセット、利便性を両方進める。優先は、小学校～高校まで同一 ID で。クラウド選択は自由。

市町村コードが入る。転校しても変更は不要。

学齢簿作成時に教育クラウド ID を作成するため、小学校入学前の冬には作成。

アカウント命名規則

入学年度2桁、市町村コード4桁(県から示す)、連番4桁：長野市が多いが、3～4000人。4桁で十分。@g.nagano-c.ed.jp は長野県の持っているドメイン。市町村それぞれで作れなければ、県と契約して g.nagao-c.ed.jp を使う。

(2) - 6 教育クラウドに関する県立学校連携

【丸山】別添資料のとおり検討事項を説明

(説明内容)

コロナで先行、別のルールで始めている。現状は統一ルールから外れているが、今後、IDを持った生徒が入学してくることから、3年後には統一したルールのものになっていく。

(2) - 7 教育クラウドに関する教職員の命名について

【降旗】別添資料のとおり検討事項を説明

(説明内容)

教職員については職員番号があることから、職員番号を生かしたクラウド ID としたい。

アカウント命名規則

t+8桁職員番号+イニシャル。

ただし、一部の高校、特別支援学校で職員番号が表示されることに対し懸念。

【坪井】統一してアカウント。別クラウドでも同じルールでベース（下地）を作る。今は3種（Google、Microsoft、iOS）だが、他のクラウドでも利用可能なように横展開できる。

【村松】小学校から高校まで統一した命名規則の元使える。利用するクラウドを固定するのではなく命名規則のルール統一ということで、独自性を大事にしながら実施できる。

非常に長野県らしさが出ている

(2) - 8 御意見・御質問

【長野市立三本柳小学校：宮澤校長】

長野市は長野市独自で進めている。心配なのは、課題に気づかない市町村があること。

長野市が長野県教育クラウド ID に賛同するとスムーズに進む。長野県推奨の設定の教育クラウド ID に参加できれば。

【村松】課題に気が付かないことは大きな問題。

長野市がルールに沿っていただくことは大きな意味を持つ。ぜひ頑張ってください。

【喬木村立喬木中学校：川手校長】

喬木では Chromebook を導入した。夏休み前に生徒が設定。ID は独自に設定し使用していく。

県推奨のクラウド ID 設定への移行は要検討。

先週、生徒に対して Chromebook の貸与式を実施。来週の土曜日（9/5）参観日に保護者に Chromebook を使っていただく。

持ち帰り自宅のネット環境につないでみる。

心配なのは、Chromebook が来ても、設定する職員がいない。箱だけ来て何にもできない心配。5年前喬木中に1人1台タブレットの時そうだった。

【村松】 Chromebook の設定について生徒は簡単に設定できたか？

【川手】 堪能な先生がいて、簡単にできた。校長自身も実施。実施した動画が HP アップされている。

【栄村立栄小学校：宇佐美教諭】

栄村では70台を共同調達。村教委に共同調達があることを伝えたら、担当者は非常に喜んでいて。小さな教育委員会では担当者が様々な内容を担当するため、情報不足になりがち。継続的な情報提供を。

1人1台環境で現場で使っていけるのか、心配。

【村松】 活用サポート等は、ICT 支援員等に支援してもらえるか。

次は活用、継続的な情報交換できたら。

【佐久市立中込中学校：瀬下教諭】

市町村アンケートにおいてセキュリティについての意見があった。

教育クラウド ID が連番で作成されると、人の ID を利用してしまわないか。

パスワードの管理をどのようにするか検討していかなければならない。

ICT 支援員はどの程度学校に来ていただけるか。

【村松】 パスワード管理、低学年は ID、パスワードなしとか。今後検討していく必要があると考える。

ICT 支援員には、自治体毎の雇用。

現在構想しているのは、各地業者さんに声をかけ、支援員のネットワークを作り、大学でサポートをする。ICT 支援員より学びのサポートのほうがいいのでは、学びの質向上を。業者さんの協力いただかないといけないと感じる。

【清陵附属中：五味教諭】

Google の Form 使ってテストを実施している。クラウド ID が連番であると集計した際に、誰が誰だか全く分からない。

セキュリティについて議論していくことは必要だが、活用に向けて一歩踏み出したい。

また、セキュリティポリシー改定までにどのようなスタンスで進めて行くか。利活用、探究的な学び、総合的な学習で活用したい。

【東原】 教育クラウド ID の表示名については、奈良県が上手に実施している。

奈良県は、表示される苗字の部分に「年組番号」、名前部分に「名前」などを入れて運用面での利用しやすさを進めている。

普段は、表示される部分（「年組番号」「名前」）が表示され、教育クラウド ID の部分は表示されない。

今後は、絶対1つ統一的な ID が必要になる。

先生方のマインドセットの変更を。子供を情報社会に参画させるための教育

を意識せざるを得ない。

パスワードの変え方や作り方、低学年は数字だけとか、ある程度大きくなると大文字混在とか。パスワードの教育を。Society5.0＝データ利活用時代ともいわれる。マイナンバーカードの使用を再検討という話も。安全と、利活用のバランスを。試行錯誤し問題点出して検討していけたら。

【村松】パスワードに関する事項についてはさらに検討を。

【総合教育センター：安松専門主事】

自治体毎にOS, システムが違う。センターの研修はどのOS, クラウドで実施するのかという不安がある。

【村松】現在は過渡期。クラウドベースでやっていけば、OSの差異、使い勝手は埋まっていく。主事の先生にはいろいろとお願いしていきたい。

クロージング

【村松】次回以降については、運用時に出てきた内容を整理し、検討することを決めて行けばと思う。

【松坂】色々とお出しいただき、方向性・検討事項を決めていきたい。

次回は12月。運用が進んでいくことから様々な問題を拾い上げ検討したい。